



アクアシステム株式会社

● 建設業（水道本管工事、プラント配管など）



水を届ける確かな技術が 命をつなぎ、未来を拓く

暮らしに欠かせない水。《アクアシステム株式会社》は、上下水道の施設からプラント配管、公共施設の空調・換気・消火設備、個人宅の水回り工事などまで水に関わる幅広い事業を展開している。

24
LEADING COMPANY

水関連の幅広い事業を展開
県内トップクラスの実績

蛇口をひねれば、いつでもきれいな水が出てくる。《アクアシステム》が支えてきたのが、そんな「当たり前」の暮らしだ。しかし近年、全国各地で老朽化した水道管の破裂事故が相次いでおり、死亡事故に結びつくケースまで出てきている。「老朽管更新の必要性が叫ばれる一方、人口減少が進む地方の小規模自治体では、多額のコストをかけた上下水道管の布設替工事は建設的ではない。状況に応じて公共下水道から市町村設置型の合併処理浄化槽設備への転換など、見直しが求められているのが現状です」と三澤孝志社長。「そんな中、高い技術力を持つ職人を抱え、上下水道と浄化槽工事のいずれにも初動からアフターケアまで対応できるのが当社の強み」と胸を張る。400ミリ以上の大口径の鉄管を切る技術を持つ社員も複数おり、県内トップクラスの業績を誇る。米子市の水道関連会社で修業した初代が1963年、義兄とともに起業。産業の発展や人口の増加で、安全かつ安定的な水の供給が重要課題となる中、地域の環境整備に奔走した。個人宅のガスや水道の配管工事からスタートするも、徐々に事業規

模を拡大し、上下水道の施設工事や大規模な管工事を行うように。地元大手企業《株式会社プロテリアル》の工業用水や冷却水などのパイプライン配管も担っている。

高まる需要に対応する形で2024年度は人材確保に注力し、約1年で9人が入社。平均年齢が大幅に下がり、組織の若返りが進んだ。従来が年間0〜1人だったことを思えば飛躍的な数字だ。「就活担当の若手社員によるSNS発信などが効いたようです。社内の仕事風景やレクの様子を見て、雰囲気惹かれて入社した人が多いんです。僕が一人で合同説明会に出ていた時は鳴かず飛ばずだったんですが」と苦笑する。新たな仲間増加は既存社員も刺激し、社内がより闊達になったという。

急増した社員向けに力を入れるのが、人材育成だ。25年5月からは若手新人社員を対象にした「ステップログ」という取り組みをスタート。1週間ごとに作業内容や感じたことなどを書いてもらい、理解度を確認したり、困りごとを聞き取ったりするのが狙いだ。若手一人一人につき所属部署の先輩社員らが1〜2人対応することで、技術面でも精神面でも細やかなサポートができるほか、教える側の技術やコミュニケーションを高めることにもつながっている。



《第11回しまねいきいき雇用賞》を受賞。「社内レクから採用、資格取得支援などまで、社員が自立的に動いてくれるおかげで会社があまう回っています。僕がしているのは最初の声かけくらい」と笑う三澤社長。

同年6月にはビジネス向けチャットツール内に質問研究室グループ「Q-Lab」を開設。誰でも投稿できるため、疑問が即時に解決され、知識も共有できるとして好評だ。働き方改革も推進する。25年度から完全週休2日を実現し、夏には2泊3日の北海道社員旅行も実施した。一方、工務棟をスタジオルームに改装し、終業後などに資格の勉強ができる環境も整えたことで、受験率が向上。「水は人の命をつなぎ、産業活動を潤す貴重な資源。水に関する施工のプロフェッショナルとして技術を研鑽し、地域社会の進展に貢献したい」と三澤社長。その言葉からは、「当たり前」の日常を守る強い使命感と誇りがにじみ出ている。

アควアシステム 株式会社

創 業 昭和38 (1963) 年12月10日

代表者 代表取締役 三澤 孝志

社員数 47名 (男37名 女10名)

本 社 島根県安来市安来町431

事業内容

水道本管工事、プラント配管、空調・換気・消火配管、民間の上下水道工事など

勤務地(採用エリア)

安来市、仁多郡、松江市

採用区分

新卒採用

キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 日程が決まり次第、採用サイトとInstagramにて、順次情報公開。

採用担当者からあなたへ

この仕事の魅力は、「地域の皆様の暮らしを支えている」というやりがい。専門的な技術が身につく、一生モノのスキルになります。AIや機械では代わりがきかない、「手に職」の仕事です！一つ一つの経験が、自分の強みになります。働きながら成長できる環境で、やるほどに「できる！」が増えていく、その楽しさを一緒に味わいましょう。

総務部 部長
三澤 彩乃さん

採用に関するお問い合わせ先

0854-22-3538

公式サイトは
こちら



Instagramは
こちら



マイナビは
こちら



生き生きと働ける職場環境

水に関する事業 各地で実績多数

水道管の布設や上下水道の施設工事、大手工場のプラント配管、一般住宅の水回り工事など、水に関わるさまざまな事業を行っている。CADでの設計図作成から現場での作業まで一貫して自社で実施しており、安来市内を中心に県内各地で実績を誇る。



丁寧な取り組みで 技術向上を支援

新入社員の急増を機に、先輩社員とコンビを組んだOJTに加え、現場での困りごとなどを文字化して上司に伝える「ステップログ」、チャット上で学習できる「現場Q-Lab」などを導入。社内にスタディールームを設けるなど、社員のスキルアップ支援にも注力する。



社員が楽しめる 若手企画のレク

若手社員が中心になり、家族を招いての納涼会などレクリエーションを積極的に開催（写真右は社員の子どもによる感想）。社員と家族が笑顔でいられることも大切にしている企業文化の一つだ。今年は8年ぶりに社員旅行を実施し、北海道を満喫した。



暮らしを支える水のプロ集団

確実に技術力を磨き、実務に加え施工管理も担当

実力次第でどこまででも自分を高めていける会社——。高校の進路担当の先生に勧められた言葉が響き、入社を決めた。1級配管技能士、2級管工事施工管理技士などの資格を取得し、今年から主任を拝命。「自分でも実力が付いてきたなと実感します」と照れ笑いを見せる。

一般住宅の給排水管修理をメインに担当してきたが、昨夏は母校のトイレ改修工事で初めて現場代理人に。「授業を邪魔しないよう大きな音が出る作業は休憩時間に集中させるなど、工程管理に気を使いました」。効率的に作業を進め、文化祭・体育祭までの完成という先方の要望を見事叶えた。「高校生にとって大切なイベントを、工事の音で邪魔しなくて良かった」。現場と施工管理の両方に今後力を入れる。



奥出雲営業所 工務部
山根 康弘さん(29)
2016年入社(入社10年目)

一度は諦めた建築業界へキャリアチェンジ。目標は建築設備士

幼少期から意匠設計に憧れ、大学で学んだものの卒業後はまったく異業種の会社に就職した。「友人たちと比べて、自分のセンスのなさを痛感したんです」。しかし、夢を諦めた後悔がずっと残っていた。そんな中、設備設計という仕事を知り、建築に携われるとの思いでキャリアチェンジした。

現在は、新築する特別養護老人ホームの施工図面を担当。現場事務所に常駐し、職人たちがスムーズに作業できるよう、寸法や器具の個数・位置、配線のルートなどを記載した図面を作業エリアごとに作成する。「建物ができ上がっていく様子を肌で感じられ、さまざまな業種の方々の話も聞けるので勉強になります」。実務経験を重ね、建築設備士の資格取得を目標にしている。



工務部
宇山 旭さん(29)
2025年入社(入社1年目)

先輩とコンビを組み、OJTで日々技術と知識を習得

入社4年目の先輩社員とコンビを組み、一般家庭の給排水管工事に携わる。「修理工事では水が漏れている箇所を探すのが大変。先輩は僕の10倍のスピードで見つけ出していて、早く追いつきたいです」。小学生の時に同じ野球チームのメンバーだった旧知の先輩には聞きやすく、日に日に技術を習得。現場で聞くタイミングがなかった時には、「ステップログ」を活用し、次の現場までに教えてもらうという。勉強は苦手と言いつつ、資格試験にも挑む。

会社の雰囲気や福利厚生に惹かれて入社。「友人で週休2日の会社に通っている人はほとんどおらず、羨ましがられます」。現在も草野球チームに所属し、「北海道への社員旅行でエスコンフィールドを見られたのはうれしかったです」と笑みがこぼれた。



工務部
山崎 光翔さん(19)
2025年入社(入社1年目)

女性社員として社内初の1級管工事施工管理技士資格を取得

今年、国家資格であり、高度な専門知識が必要とされる1級管工事施工管理技士を取得。終業後も夜遅くまで社内のスタディールームで勉強するなどして、高い難易度の試験をクリアした。「会社が勉強に集中できる環境を整えてくれ、家族の支えもあったからこそ達成できました」。現在は1級土木施工管理技士にも挑戦しており、他の社員のモチベーションアップにもつながっている。

「長年工務部の努力や活躍を間近で見て、自分も力になりたい」と考え、入社以来所属していた総務部から工務部へ転籍。施工図面や申請図面の作成などを担当する。現場の生産性向上に大きく寄与したことなどが評価され、《令和6年度しまね働く女性きらめき大賞》を受賞した。目指すのは、社内になくってはならない存在だ。



工務部
須山 逸美さん(40)
2015年入社(入社11年目)